

2016.8.7現在

札幌国際 芸術祭 2017

SAPPORO
INTERNATIONAL
ART FESTIVAL

開催概要

芸術祭って
なんだった？

参加アーティスト
第一弾 発表

Main Venues:

Sapporo Art Park / Moerenuma Park / Central Area / Maruyama Area /
Shiryokan (Former Sapporo Court of Appeals) / JR TOWER PLANIS HALL /
Sapporo Odori 500-m Underground Walkway Gallery and others

<http://siaf.jp>

SIAF

ゲストディレクター
大友良英

“WHAT IS
AN ART FESTIVAL?”

GUEST DIRECTOR
OTOMO YOSHIHIDE

2017
8.6 - 10.1

会場：札幌芸術の森／モエレ沼公園／まちなかエリア／円山エリア／
札幌市資料館／JRタワープラニスホール／札幌大通地下ギャラリー500m美術館 ほか

ごあいさつ



札幌市は、2006年に「創造都市さっぽろ」宣言を行い、市民の創造性を活かしたまちづくりを進めています。2013年にはアジア初のメディアアーツ都市としてユネスコ創造都市ネットワークの加盟を果たし、2014年には札幌国際芸術祭を初開催しました。

そして、来年8月、第2回となる札幌国際芸術祭2017が開幕いたします。ゲストディレクターに音楽家の大友良英氏をお迎えし、さまざまなジャンルで活躍する方々とSIAF2017スペシャル・ビッグバンドと呼ばれる企画チームを編成し、開催に向けての準備を進めています。

今回の開催テーマは「芸術祭ってなんだ?」。大友ゲストディレクターの指揮の下、既存のイメージにとらわれない、札幌らしい芸術祭とは何かを皆様と一緒に考えながら、このテーマに対する答えとなる芸術祭をつくりあげていきたいと思っています。

さわやかな夏、そして秋の気配が近づく季節に、都心部や緑あふれる公園などの会場には、3年に1度の国際芸術祭だからこそ出会える作品がたくさんあります。また、各会場を巡ることで札幌の街を堪能できることでしょう。

ぜひ、多くの皆様にお越しいただき、アートの力により高められる札幌の魅力を再発見していただければ幸いです。

札幌国際芸術祭実行委員会 会長
札幌市長 秋元 克広



札幌国際芸術祭2017 テーマ

芸術祭ってなんだ？

2回目になる札幌国際芸術祭のテーマは「芸術祭ってなんだ？」です。今回ゲストディレクターへの就任依頼が来たときに、わたしがまず最初にひっきり、そして今も考え続けているのが「芸術祭」ってなんなのかということです。「芸術」ってなんなんでしょう。それが「祭り」になるってどういうことなのでしょう。

震災後、わたしが取り組んできた活動の中でも、とりわけ大きな比重を占めてきたのが、これまでにない新しい「祭り」の創出でした。ここの「祭り」とは単に歌ったり踊ったりの間を作るのではなく、いや、それももちろん重要ですが、なにより、参加する前と後とで世界の見え方が一変するくらいの、そんな強烈な場を自分たちの手で作り出すことが、わたしの考える「祭り」です。今回はここに「芸術」や「国際」、そして「札幌」が加わります。さて、どうしていったらいいものか。

そんなことを考えれば考えるほど、これらの問いに対して自分一人で考えて、答えを出すのはもったいないと思うようになりました。市民参加の芸術祭ですから、市民の数だけ答えがあるはずで、こうした問いに対して、正解がひとつである必要なんてないと思います。正解とか、正論を探すのではなく、実際に手を動かし、誰かと何かを作るところから見えてくる何か、

感じる何かであつたほうがいい、わたしはそう考えています。100人いたら100通りの発想があり、それらが同じ方向を向かなくなつていい。むしろ向かないことで、ときに相互に反応しあいながらノイズが生まれたり、予想もできないとんでもないモノが生まれたり。そして、それを「豊かさ」として受け入れていく大きな度量の芸術祭でなければ、世界の見え方なんて変えられるはずがありません。

でっかい北の大地を舞台にした始まったばかりの芸術祭です。札幌や北海道の人たちがこれまでつくってきたものや、前回の芸術祭の残してくれたものを生かしつつ、耳をすまし、目をこらし、体で感じつつ、おおらかに、ときにやんちゃに、ここでしかできない「芸術祭」をみなでつくっていきませんか。やれ美術ではこうだ、音楽ではこうだなんてことは二の次にして「札幌ではこうだ！」と言えるような新しい「芸術祭」を目指してみませんか。ここで出会ったみなさんとならそれができそうな、そんな素敵な予感がしています。

札幌国際芸術祭2017
ゲストディレクター 大友 良英

SIAF2017
GUEST DIRECTOR

大友 良英
OTOMO YOSHIHIDE
音楽家

1959年、神奈川県横浜市生まれ。実験的な音楽からジャズやポップスの領域までその作風は多種多様、その活動は海外でも大きな注目を集める。また映画やテレビの劇伴作家としても数多くのキャリアを有する。近年は「アンサンブルズ」の名のもと、さまざまな人たちのコラボレーションを軸に展示作品や特殊形態のコンサートを手がけると同時に、一般参加型のプロジェクトにも力を入れている。東日本大震災後は十代を過ごした福島でプロジェクトを立ち上げ、現在もさまざまな活動を継続中。2012年には、「プロジェクトFUKUSHIMA！」の活動で芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年、「あまちゃん」の音楽でレコード大賞作曲賞ほか数多くの賞を受賞している。2014年、独立行政法人国際交流基金アジアセンターとともに「アンサンブルズ・アジア」を立ち上げ、音楽を通じたアジアのネットワーク作りを奔走している。札幌との縁は古く、1980年代、札幌で長年にわたり、個人で前衛音楽を紹介しつづけて来たNMA (NOW MUSIC ARTS) の沼山良明に見いだされたことが音楽家としてのキャリアの重要なスタートとなる。1990年以降は、NMA企画で、毎年のように札幌を訪れ、今日に至るまでさまざまな音楽企画に参加、出演している。また震災後、福島から移住して来た「たべるとくらしの研究所」の安斎伸也の強い働きかけで、2012年以降、札幌でも「プロジェクトFUKUSHIMA！」の活動を展開してきたことがSIAF2014に取り上げられ、これが札幌市北3条広場で毎年行われる「さっぽろ八月祭」を生むきっかけとなった。これらの活動が注目され、2015年、SIAF2017のゲストディレクターに指名される。

開催概要

名称	札幌国際芸術祭2017 (SIAF2017) ^{サイアフ}
テーマ	芸術祭ってなんだ？
開催期間	2017年8月6日（日）～ 10月1日（日）【57日間】
会場	札幌芸術の森／モエレ沼公園／まちなかエリア／円山エリア／札幌市資料館／ JRタワープラニスホール／札幌大通地下ギャラリー 500m美術館 ほか
ゲストディレクター	大友 良英
参加アーティスト [第一弾]	ARTSAT × SIAFラボ dj sniff EY3 堀尾 寛太 マレウレウ 毛利 悠子 中崎 透 大友 良英 + 青山 泰知 + 伊藤 隆之 刀根 康尚 梅田 哲也 ユエン・チーワイ レトロスペース坂会館 大漁居酒屋てっちゃん
	2016.8.7現在
主催	札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市

札幌市広域図



📍 SIAF2017会場 詳細はp.5 - p.8

モエレ沼公園 ⇄ 札幌芸術の森 — 約27km
公共交通機関 約1時間40分 / 自動車 約1時間

モエレ沼公園 ⇄ 札幌市街地 — 約15km
公共交通機関 約1時間 / 自動車 約30分

札幌芸術の森 ⇄ 札幌市街地 — 約17km
公共交通機関 約50分 / 自動車 約35分



札幌市は、北海道の中心都市として、人口約195万人（北海道の総人口の約3割）を擁する、全国5番目の都市です。四季の移り変わりが鮮明な街であり、季節によってさまざまな表情を楽しむことができます。2015年10月には、長崎、神戸とともに日本新三大夜景都市にも認定されました^(※)。

また、「さっぽろ雪まつり」に代表される多彩な催しや、採れたての野菜・果物、新鮮な海の幸による豊かな食文化により、国内外から多くの観光客が訪れる国際観光都市です。

※一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューロー認定

📍 アクセス

新千歳空港 ⇄ 札幌駅 JR：40分 / バス：70分

会場エリア

緑に囲まれた広大な敷地を有する札幌芸術の森やモエレ沼公園。

都市の活気と歴史が同居するまちなかエリア。

SIAF2017では、特徴の異なる各会場を巡ることで、

札幌の多様な魅力を体感していただくような会場設定を試みています。



モエレ沼公園



すすきの交差点



札幌芸術の森 SAPPORO ART PARK

ジャンルに収まらない表現者たちが集う、「芸術の森」

札幌芸術の森会場では、自らがジャンルとなるような独自の活動を行ってきたアーティストたちが、広々とした森全体に共鳴空間を作り出します。今回参加が発表となったEY3と刀根康尚は、聴覚と視覚のふたつの領域を行き来しながら活動し、大友良英とも交感してきた表現者たちです。いまこの瞬間にしか訪れない「現在」についての鮮烈な感覚を印づける彼らの作品は、私たちを、日常とは異なる時間の軸へと解放してくれるはずです。



札幌芸術の森

札幌市南区芸術の森2丁目75

札幌芸術の森は、北方の新しい芸術・文化の創造を目指すため、1986年7月にオープンしました。豊かな自然環境のなかにある広さ40ヘクタールにおよぶ敷地には、さまざまな展覧会を開催する「札幌芸術の森美術館」や季節の移り変わりと共に64作家74点の彫刻作品を楽しめる「野外美術館」、クラフト作品等の展覧会が開催される「工芸館」のほか、「クラフト工房」や「アートホール」など、鑑賞、発表、制作、研修、練習等の機能を備えた各種芸術施設が点在しています。

アクセス

○さっぽろ駅 — [地下鉄18分] — 真駒内駅 —
— [バス15分] — 芸術の森入口
○さっぽろ駅・大通駅周辺から車で35分



大友 良英 + 青山 泰知 + 伊藤 隆之 (without records - mot ver. 2015) 撮影: 丸尾 隆一

モエレ沼公園 MOERENUMA PARK

イサム・ノグチの庭から広がる音の宇宙

モエレ沼公園会場では、公園の象徴であるガラスのピラミッドを拠点として、彫刻家イサム・ノグチが公園設計に込めた、宇宙規模の視点を現代につなぐプロジェクトを屋内外で展開します。ガラスのピラミッドでは残響音が12秒を超える特殊な音響空間の中で大友良英+青山泰知+伊藤隆之による作品《without records》を基にした新作を発表。また、ARTSAT×SIAFラボによる《Sculpture to be Seen from Space, Improvisation to be Heard from Space. 宇宙から見える彫刻、宇宙から聞こえる即興演奏》では園内から成層圏まで気球を打ち上げ、ライブコーディングによって宇宙とつながる即興演奏に挑みます。公園内のあちこちで、再生することのできないひとときの音楽が鳴る、公園全体が大きな音響彫刻の空間となります。



モエレ沼公園

札幌市東区モエレ沼公園1-1

世界的な彫刻家イサム・ノグチ (1904~1988年) が基本設計を行い「公園全体をひとつの彫刻作品」とするダイナミックな構想により造成が進められたのがこのモエレ沼公園です。1982年に着工し、2005年にグランドオープンしました。189ヘクタールにおよぶ広大な敷地には、石狩平野を囲む山脈を一望できるモエレ山や、最大25メートルまで吹き上がる「海の噴水」など、幾何学形態を多用した施設が整然と配置され、自然とアートが融合した美しい景観を楽しむことができます。ノグチの遺作ともなるこの公園は、札幌が世界に誇る施設の一つです。

アクセス

○さっぽろ駅 — [地下鉄5分] — 環状通東駅 —
— [バス25分] — モエレ沼公園東口
○さっぽろ駅・大通駅周辺から車で30分

まちなかエリア

CENTRAL AREA

街の中央を横断する大通公園の南側に位置する狸小路、すすきのエリア。狸小路は、東西に延びる約900メートル、店舗数約200軒の商店街を有し、地元住民の日用品の買い物や、海外観光客の観光・お土産購入スポットとして賑わっています。一方、夜の人口が約8万人ともいわれるすすきの、歌舞伎町（東京都新宿区）、中洲（福岡市）とともに日本三大繁華街として全国的にも有名です。SIAF2017では新たな試みとして、この「まちなか」を、芸術祭の主要なエリアに位置づけます。

📍 アクセス

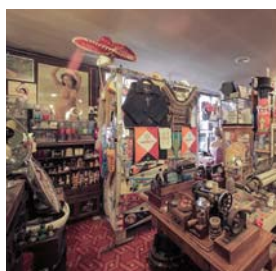
さっぽろ駅 — [地下鉄1分] — 大通駅（狸小路エリア）

さっぽろ駅 — [地下鉄3分] — すずきの駅（すすきのエリア）



アートはこれを超えられるか！ 芸術祭はまちなかに出ますプロジェクト

市井の中に評価も求めず、類いまれな情熱で、類いまれなるものを作る人がいます。
どの文脈にも属さないアートが確かな存在感を示している、札幌が誇る至宝をまちなかエリアで紹介します。



札幌の至宝



札幌の至宝

レトロスペース坂会館

札幌市西区二十四軒3条7丁目3-22

坂栄食品株式会社の元レストランで、結婚式場だった坂会館に1994年6月開館。同社取締役開発部長の坂一敬館長が私財を投じて、失われていく昭和の身近に使っていた雑貨を数万点収集した私設博物館。隅々まで磨き上げられ精緻に積み上げたコレクションには命が吹き込まれて、人と物との関係が濃密に宿っています。文化として清濁分け隔てなく同一の愛を注ぎ、慎ましくも深い洞察力の結晶が並ぶアートを超える札幌の至宝です。

大漁居酒屋てっちゃん

札幌市中央区南3条西4丁目 カミヤビル7階

「てっちゃん」こと阿部鉄男さんが20年の歳月をかけて店内を埋め尽くしたコラージュ空間は圧巻。トイレの水槽コラージュ&アッサンブラージュも必見で、世界中を探しても唯一無二な空間です。「てっちゃん」いわく、「レコードジャケット貼りから始まり、正月三ヶ日泊まり込んで貼り込んで起点を形成。その後、お客さんとの交流も加わり次第に増えて現在の状況となりました」。空いた時間に制作した、家族の肖像といえる油絵や素描は、描く喜びがほとばしる絵画。技術より大事なものがそこにあります。



市電プロジェクト～都市と市電～

2015年末に実現したループ化によって注目を集める札幌市電。SIAF2017では、札幌市開拓の原点である市電エリア、特に旧山鼻村の歴史や営みに着目し、その象徴である市電の新たな活用を試みることで、経済圏と生活圏をつなぐ地域固有の暮らし方を顕在化させる仕組みを、アーティストと市民が共同で考案・検証・提案することを目的としたプロジェクトを実施します。

円山エリア

MARUYAMA AREA

札幌の市街地から西に位置する円山と、その周辺に広がる円山地区は、札幌中心部からほど近い場所にありながら、天然記念物に指定される円山原始林や、円山公園を擁する自然豊かなエリアです。また、北海道神宮や、お洒落なカフェやレストラン、ギャラリーや美術館などが点在する人気の街歩きスポットとして多くの市民に親しまれています。SIAF2017では、ファミリーで楽しめる円山動物園も会場となる予定です。

📍 アクセス

さっぽろ駅 ―[地下鉄12分]― 円山公園駅



その他の会場

OTHER VENUES

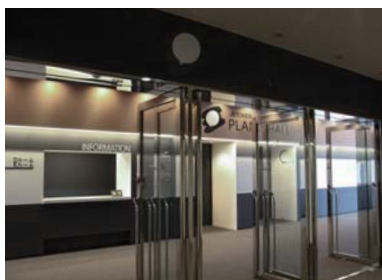


札幌市資料館 札幌市中央区大通西13丁目

SHIRYOKAN (Former Sapporo Court of Appeals)

1926年に札幌控訴院（のちの札幌高等裁判所）として建てられ、現在は国の登録有形文化財に指定されています。SIAF2017では、この札幌市資料館を拠点として展開しているSIAFラボの活動をベースに、インフォメーション、ボランティアセンター、ワークショップ・展覧会、各種イベントを展開し、芸術文化活動の担い手をはじめとする活動団体、アーティスト、研究者、そして市民の方々のよりどころとして活用します。また、本祭に向けたいろいろな取り組みから情報を収集し、資料館そのものが「未来の札幌」を発信するメディアとなることを目指します。

📍 アクセス さっぽろ駅 ―[地下鉄8分]― 西11丁目駅から徒歩5分



JRタワープラニスホール 札幌市中央区北5条西2丁目 札幌エスタ11階

JR TOWER PLANIS HALL

新千歳空港からの直通列車が到着するJR札幌駅は、1日に9万人を超える人が利用する札幌の玄関口です。SIAF2017の会場の一つに決定したJRタワープラニスホールは、この札幌駅から直結する商業施設札幌エスタにあります。これまでさまざまな展覧会やイベントを通じて文化発信してきたこのホールでは、作品展示を行い、SIAF2017の最初の窓口として皆さんを迎える予定です。

📍 アクセス JR札幌駅直結



札幌大通地下ギャラリー 500m美術館 札幌市中央区大通西1丁目～大通東2丁目

SAPPORO ODORI 500-M UNDERGROUND WALKWAY GALLERY

地下鉄大通駅とバスセンター前駅を結ぶ地下コンコースにある、全長500mにわたるギャラリーです。1年を通してさまざまなアート作品が設置され、市民が国内外の多彩な芸術文化に触れる機会を創出しています。SIAF2017では、中崎透と、500m美術館のボランティアチームが協力して、冬とスキーにまつわるプロジェクトを展開していきます。

📍 アクセス さっぽろ駅 ―[地下鉄1分]― 大通駅直結（大通駅と東西線バスセンター前駅を結ぶ地下コンコース内）

会場は今後、追加される予定です。

メインビジュアルと シンボルマーク

変化するデザイン

メインビジュアルやシンボルマークをはじめとしたデザインのすべては開催期間に照準を合わせ変化させていきます。

2016年2月16日の開催概要において、「札幌国際芸術祭デザインプロジェクト」を、2016年からスタートする継続プロジェクトの一つとして以下のように説明していました。

「SIAF2017を広く発信するデザインは、ワークショップを通じて、芸術祭のテーマにふさわしいデザインの考え方を整理し、まずはシンボルマークに繋げていきます。同時に、サインや看板といった必須のデザイン要素やコミュニケーションのためのデザインを共同作業として組み立てていく予定です。結果だけでなく、その過程を重視することにより、アーカイブについても学習と実践の機会となることを目指します。」

ここに書かれている通り、これまで一般参加のミーティングやワークショップを重ね、会場につながる札幌の街全体の風景を視野に入れながら、どのようなデザインがSIAF2017にふさわしいかを判断するための軸を探ってきました。そこから導かれたのが右記の項目です。

- ① 単一の規格で統一イメージをつくるのではなく、芸術祭が包括する個々のプロジェクトの多様さに対応しうる柔軟さを備えていること。
- ② 札幌の街全体で展開される特性を考慮し、会期に入ってから現場判断によってもカスタマイズが可能となるような変動性を持たせること。
- ③ インターネットを通じて世界中の人たちと情報共有することを踏まえ、情報のやり取りによる各要素の変更余地も残しておくこと。
- ④ 芸術祭のため (for SIAF) だけでなく芸術祭を通じて (through SIAF) 推進されるべきデザインプロジェクトの一環として、成長させられるものであること。

つまり、現時点で発表したものもまだ途上であり、会期までの約1年の間にも徐々に変化し、また個々のプロジェクトとともに会期が終了するまでの間にも成長を遂げるものとして、造形的にも色彩的にも幅を持った設定をしています。

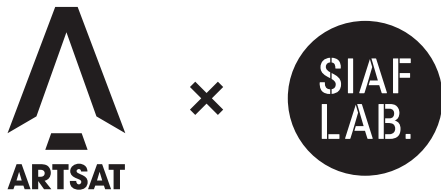


佐藤 直樹 SATO NAOKI

アートディレクター／多摩美術大学教授

1961年東京都生まれ。北海道教育大学卒業後、信州大学で教育社会学・言語社会学を学ぶ。美学校 菊畑茂久馬絵画教場修了。1994年、『WIRED』日本版創刊にあたりアートディレクターに就任。1998年、アジール・デザイン（現Asyl）設立。2003～10年、アート・デザイン・建築の複合イベント「セントラルイースト東京（CET）」プロデュース。2010年、アートセンター「アーツ千代田 3331」立ち上げに参画。サンフランシスコ近代美術館パーマネントコレクション他国内外で受賞多数。

参加アーティスト



ARTSAT×SIAFラボ

ARTSAT×SIAF LAB.

「衛星はメディアである」をモットーに、宇宙の文化芸術活用を推進するプロジェクトARTSAT: 衛星芸術プロジェクトは、2010年、多摩美術大学と東京大学のコラボレーションから活動開始。2014年2月、世界初の芸術衛星「ARTSAT1: INVADER」の打ち上げに成功し、続く同年12月には「はやぶさ2」との相乗りで、地球の引力圏を脱出する深宇宙彫刻「ARTSAT2: DESPATCH」を惑星軌道に投入し、最速で470万km(月までの距離の約12倍)からの電波の受信に成功した。2015年アルスエレクトロニカでHYBRID ART 部門優秀賞をチーム受賞。平成27年度芸術選奨大臣賞(メディア芸術部門)を久保田晃弘が受賞。今回のSIAF2017では、久保田晃弘(リーダー)、堀口淳史、中澤賢人、宇佐美尚人、橋本論らが参加し、SIAFラボの小町谷圭、船戸大輔、金井謙一、石田勝也らと共同でプロジェクトチームを結成する。

<http://artsat.jp/> <http://siaf.jp/siaflab/>



dj sniff | 香港

dj sniff

1978年生まれ。ターンテーブル奏者、DJ、キュレーター。オランダ、アムステルダムでのSTEIM電子楽器スタジオで長年Artistic Directorとしてリサーチ、キュレーション、レジデンシープログラムを任せ、100以上のコンサートプログラムおよびアーティストプロジェクトを企画／製作。演奏家としてはターンテーブルと独自の演奏ツールを組み合わせながら実験音楽／インプロビゼーション／電子音楽の分野で活動。これまでにCTM Berlin, Warsaw Autumn, Flow Festival Helsinki, REDCAT LA, March Meeting Sharjah, Jazz em Agosto Lisbon, 台北TranSonic, Platforma Moscowなどの招聘、世界中のレーベルから作品をリリースしている。現在は香港に拠点を移しアンサンブルズ・アジア／アジア・ミュージック・ネットワークのプロジェクト・ディレクターと香港城市大学創意媒體学院で客員助教授を務めている。



EY3 | 日本

EY3

80年代初頭より重機などを用いたパフォーマンスで注目を集めた後、1986年、ボアダムスを結成。ソニック・ユースとの共演をきっかけに米国に進出、世界的なアンダーグラウンド・シーンに影響を与える。以降現在まで、ボアダムスの中心メンバーとして実験的なパフォーマンスを展開、2007年にはニューヨークで77名のドラマーとともに「77 BOA DRUM」、2008年にはロサンゼルスで「88 BOA DRUM」を開催。個人名義では、大友良英のユニット「GROUND ZERO」に参加したほか、ジョン・ゾーン、ビル・ラズウェルなど多数のアーティストと精力的に共演、DJとしても活躍。ヴィジュアル・アーティストとしては、BECKの『Midnite Vultures』(1999年)のジャケット・イラスト制作で知られるほか、『NANOO』(1996年)、『ONGALOO』(2006年)などの画集を出版、P.S.1など世界各地の展覧会にも参加。大竹伸朗とのユニット「PUZZLE PUNKS」としても活動している。



堀尾 寛太 | 日本

HORIO KANTA

アーティスト／エンジニア。

1978年広島県生まれ。東京都在住。九州芸術工科大学(現・九州大学芸術工学部)にて音響学とコンピュータ音楽を学ぶ。マシンと音の自然な関係性を追求し、自律的に各種物理現象を発生させる装置、光と音や振動が相互作用する装置などを作り、その仕組みや枠組みをライブパフォーマンスや展示としてみせる作品を発表している。また、エンジニアとして展示やイベント、映像など、幅広いプロジェクトにおいて電子デバイス開発を手がけるほか、電子楽器に関する研究開発も行う。現在開催中(～2017年3月12日まで)の展覧会に「オープン・スペース2016 メディア・コンシャス」(ICC、東京、2016年)。

<http://kanta.but.jp/>



マレウレウ | 日本

MAREWREW

アイヌの伝統歌「ウボボ」の再生と伝承をテーマに活動する女性ヴォーカルグループ。さまざまなリズムパターンで構成される、天然トランスな感覚が特徴の輪唱など、アイヌROOTSのウボボを忠実に再現する貴重なアーティスト。2010年、活動を本格化。NHK (Eテレ) の人気子供番組『にほんごであそぼ』や『妄想ニホン料理』への出演、ワールドミュージックの世界的な祭典Womad (英国) をはじめとするヨーロッパ公演など、国内のみならず海外でもその活動が注目されている。マレウレウはアイヌ語で「蝶」のこと。

<http://www.tonkori.com/>



毛利 悠子 | 日本

MOHRI YUKO

1980年神奈川県生まれ。東京都在住。日用品と機械とを再構成した立体物を環境に寄り添わせ、磁力や重力、光など、目に見えない力を感じ取るインスタレーション作品を制作する。2015年、アジアン・カルチュラル・カウンシル (ACC) グランティとしてニューヨークに滞在。同年「日産アートアワード2015」でグランプリを受賞。近年の主な展覧会に「Circus without Circus」(Project Fulfill Art Space、台湾、2016年)、「六本木クロッシング2016」(森美術館、2016年)、「Regeneration Movement」(国立台湾美術館、台湾、2016年)、ヨコハマトリエンナーレ2014、札幌国際芸術祭2014など国内外多数。

<http://mohrizm.net/>



中崎 透 | 日本

NAKAZAKI TOHRU

1976年茨城県生まれ。美術家。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。言葉やイメージといった共通認識の中に生じるズレをテーマに自然体でゆるやかな手法を使って、看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。展覧会多数。2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より「遊戯室(中崎透+遠藤水城)」を設立し、運営に携わる。2011年よりプロジェクトFUKUSHIMA!に参加、主に美術部門のディレクションを担当。

<http://tohru51.exblog.jp/>



大友 良英 + 青山 泰知 + 伊藤 隆之 | 日本

OTOMO YOSHIHIDE + AOYAMA YASUTOMO + ITO TAKAYUKI

大友 良英 → p.2参照

青山 泰知

1960年北海道旭川市生まれ。宮城県仙台市在住。美術家として活動するほかに、ライブ、DJ等の音楽活動も行う。1995年から続く大友良英とのコラボレーションには、音楽ユニット「DJ TRANQUILIZER」やインスタレーション作品《without records》等がある。

伊藤 隆之

2003年、YCAMの開館準備室に着任。以降、数多くの作品制作に関わる。2009年、文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨークへ渡り、1年間滞在。ザッカリー・リーバーマンのもとで、オープンソースの視線検出ソフトウェア/ハードウェア「EyeWriter 2.0」の開発に携わる。帰国後は、YCAM InterLab R&D ディレクターとして、YCAMの研究開発プロジェクト全般のディレクションを担当。2015年、アーティスティック・リサーチ・フレームワークBCLに参加。



刀根 康尚 | 米国

TONE YASUNAO

1935年生まれ。作家、批評家、作曲家。1960年代初頭、「グループ・音楽」を共同で設立。1962年よりフルクサスで活動。1972年より渡米、ニューヨークやヨーロッパにおいて電子音楽の実験的な動向を巻き込みつつ、数々の重要なイベントを主催、参加する。「パラメディア・アート」という概念を提唱、作曲家として、電子音楽、コンピューターシステム、映画、ラジオ、テレビ、環境芸術といった多様な領域で作品を発表。これまでに、ニューヨークのキッチン、ニューヨーク近代美術館、ホイットニー美術館、バルセロナ現代美術館などでコンサートを開催。ヴェネチア・ビエンナーレ（1990年）、「From Postwar to Postmodern: Art in Japan 1945-1989」（ニューヨーク近代美術館、2012年）、横浜トリエンナーレ（2001年）などに参加。アルスエレクトロニカでゴールデンニカ（最優秀賞）、Foundation for Contemporary Artsの音楽部門受賞。

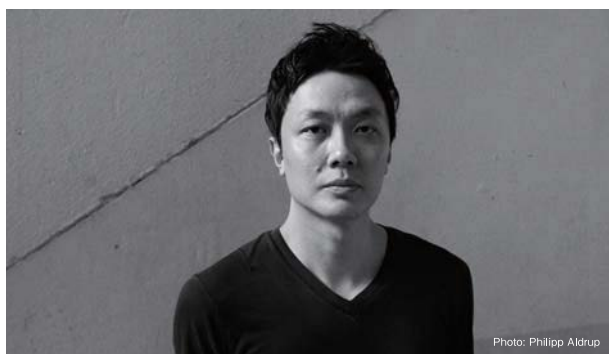


梅田 哲也 | 日本

UMEDA TETSUYA

サイトスペシフィックな体験型のインスタレーションを制作し、幅広く国内外で活躍する。近年の展覧会に「Double Vision: Contemporary Art from Japan」（モスクワ市近代美術館／ハイファ美術館、2012年）、「Simple Interactions. Sound Art from Japan」（ロスキレ現代美術館、2011年）、個展では「See, Look at Observed what Watching is」（ポートランド現代美術協会（PICA）、2016年）などがある。劇場の機能にフォーカスした舞台作品や、中心点をもたない合唱のプロジェクトなど、現地の人を巻き込んだコラボレーションも手がけ、Theater Spektakel（チューリヒ）、FUSEBOX（オースティン）など、パフォーマンスのフェスティバルで数多くの作品を発表している。

<http://siranami.com/>



ユエン・チーワイ | シンガポール

YUEN CHEE WAI

シンガポールを中心として活動している音楽家、芸術家、デザイナー。即興的な創作を通じて、音やイメージ、言葉との関係を探求している。2008年に、大友良英（日本）やリュウ・ハンキル（韓国）、ヤン・ジュン（中国）とFEN（Far East Network）を結成。FENでの音楽活動は、アジア間での学際的な共同創作に焦点を当てている。アンサンブルズ・アジア／アジア・ミュージック・ネットワークでは、共同ディレクターとして、アジア・ミーティング・フェスティバルを年に一度日本にて開催。東南アジアとの結びつきを強めることで、数多くの東南アジアと世界中のミュージシャンとの新しいコラボレーションの橋渡しを成功させてきた。また、シンガポールの前衛的・実験的なロックバンド「The Observatory」の中心メンバーとしてギター、シンセサイザー、エレクトロニクスを担当。現在までに8枚のアルバムをリリースしている。



レトロスペース坂会館 p.7参照

Retro Space Saka Hall



大漁居酒屋てっちゃん p.7参照

Tairyo Izakaya Tecchan

プロジェクト紹介



大風呂敷プロジェクト

「市民と一緒に作る芸術祭」の象徴となるプロジェクトです。地域と連携し、市内各地で集めた布で、巨大な大風呂敷や旗を制作し、札幌市北3条広場をはじめとする市内のさまざまな場所に展開してSIAF2017を彩ります。

協力：プロジェクトFUKUSHIMA!



さっぽろコレクティブ・オーケストラ

公募により集まった小学生から18歳までのメンバーで結成されるオーケストラ。大友良英を中心に藤田貴大、石川直樹、マレウレウが講師として参加しています。2016年よりプロジェクトを開始し、札幌と道内の個性豊かな参加者が集まり、さまざまな楽器を持ち寄って音楽の実験を重ねています。2016年に開催する数回のワークショップは毎回参加者を公募し、2017年は本番に向けたオーディションを開催して出演者を決め、2017年8月27日に札幌コンサートホールKitaraでの発表を予定しています。

プログラムディレクター：有馬 恵子



アンサンブルズ・アジア／ アジア・ミーティング・フェスティバル

音楽家でありプロデューサーでもあるユエン・チーワイ（シンガポール）とdj sniff（香港）の二人をプロジェクト・ディレクターに、アジア各国の先鋭的なミュージシャンを札幌に招いてフェスティバルを行います。

NMAライブ・ビデオアーカイブ

1983年より札幌で先鋭的な音楽を紹介してきた、沼山良明個人が主宰するNMAの活動から、ライブ映像を撮りとめたビデオアーカイブを当時の資料とともに公開します。1980年代のジョン・ゾーンやクリスチャン・マークレー、1990年札幌初ライブ以降の大友良英やカール・ストーンなど、主に即興音楽シーンをめぐる世界的にも貴重な記録が多く含まれています。

一緒につくろう芸術祭公募プロジェクト

SIAF2017の会期中に札幌市内で実施するイベントや展覧会を、北海道内の団体、個人から募集。応募件数98件の中から一次審査で31件が通過し、その中から選定された事業がSIAF2017の公式事業となります。選定された事業は公式ウェブサイトで開催しています。

SIAF2017へ向けたうごき



さっぽろコレクティブ・オーケストラ

楽器の音や声、身体の動きなどを組み合わせて音楽をつくるワークショップを行いました。今後もさまざまな分野で活躍する講師を招き、ワークショップを続けていきます。

- 2016年4月20日：プレワークショップ（札幌市立八条中学校の吹奏楽部の生徒とのワークショップ）
- 2016年6月11～12日：第1回ワークショップ（札幌市立資生館小学校体育館）
- 今後のワークショップ予定：2016年8月9～11日、9月25日、10月、12月、2017年2月



札幌国際芸術祭デザインプロジェクト

札幌の街全体の風景を視野に入れながら、どのようなデザインがSIAF2017にふさわしいかを判断するためにミーティングやワークショップを行いました。

- 2016年4月24日：第1回デザインミーティング
- 2016年5月21日：SIAF街歩きワークショップ
- 2016年5月22日：第2回デザインミーティング
- 2016年6月8日：第3回デザインミーティング



SIAF2017プレイベント

さっぽろ八月祭2016とさっぽろ八月祭音頭

札幌市北3条広場一面に敷きつめられた大風呂敷の上で、大友良英とさっぽろ八月祭スペシャルビッグバンドの生演奏による盆踊りのほか、さまざまなプログラムが行われました。

また、さっぽろ八月祭2016がSIAF2017のプレイベントになったことを記念して制作された「さっぽろ八月祭音頭」が披露されました。公募により集まった札幌にまつわる言葉やフレーズを基に、大友良英が作詞作曲。札幌の魅力あふれる楽曲となりました。

- 2016年8月5～6日：札幌市北3条広場（アカブラ）

さっぽろ八月祭音頭

歌詞：札幌のみなさん＋大友良英 作曲：大友良英

一、
北の大地に夏が来る 羊ヶ丘に時計台
一番星の北三条 なんもなんもで灯がともる
狸小路の大明神 チ・カ・ホ アカブラ テレビ塔

彼方に見えるは 彼方に見えるは
彼方に見えるは 虹の水平線
ここはさっぽろ ここはさっぽろ ここはさっぽろ 八月祭

シャケにホッケにホッキ貝 スープカレーにジンギスカン
アスパラ じゃがいも ザンギにとうきび
ラーメン横丁にビアガーデン
ポプラ並木にヤマト帽子 夏は短い盆踊り
風呂敷広げて盆踊り なんもなんもさ盆踊り

二、
大倉山に月が出る 夜のすすきの ネオン街
呑めや歌えや北の空 なんもなんもで夜（よ）が明ける
札幌ドームの喧騒に モエレ 円山 定山溪

彼方に見えるは 彼方に見えるは
彼方に見えるは 虹の水平線
ここはさっぽろ ここはさっぽろ ここはさっぽろ 八月祭



一緒につくろう芸術祭公募プロジェクト

応募事業98件のうち、一次審査を通過した31件のプレゼンテーション資料を公式ウェブサイト、札幌市役所1階ロビー、SIAFラウンジで公表し、市民意見を募りました。集まった意見を参考にして選定された事業は、SIAF2017の公式事業となります。

- 2016年5月9日～6月30日：事業募集
- 2016年7月19～25日：一次審査通過事業の公表
- 2016年8月7日：選定結果発表



ウポポピクニック

「ウポポ」とは、アイヌの伝統的な歌のこと。マレウレウを講師に、5歳から小学3年生までを対象にウポポを歌うワークショップを行い、その後、ウポポを歌いながら中島公園をパレードしました。パレードの様子は公式ウェブサイト等で公開予定です。

- 2016年7月31日：夏のウポポピクニック
- 今後の予定：2017年1月22日 冬のウポポピクニック



ボランティアプロジェクト

SIAF2017のボランティアとして何ができるのかを皆さんと一緒に考え、会期中のボランティアの仕組みをつくります。

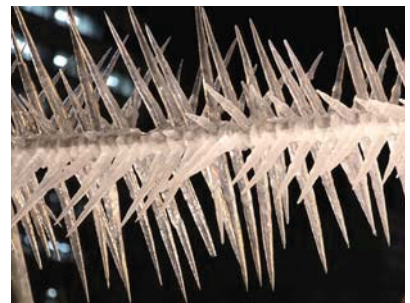
- 今後の予定：2016年10月
ボランティアキックオフミーティング（仮）



大風呂敷プロジェクト

会期中の大風呂敷の各所設置に向け、2016年11月より制作準備が本格的に始まります。キックオフに合わせてイベントを開催するほか、布を回収するボックスを札幌市内イオン北海道7店舗ほかに設置します。

- 今後の予定：2016年11月
大風呂敷プロジェクト キックオフ



SIAF2017二月祭

大友良英が選んだアーティストが、さっぽろ雪まつり大通5丁目会場のアート大雪像をデザインします。雪像のステージ上で、ここでしか見ることのできないパフォーマンスを繰り広げます。また、札幌市資料館で、冬ならではのさっぽろ垂氷（たるひ）まつりを開催します。

- 今後の予定：2017年2月6～12日
さっぽろ雪まつり（大通会場）

SIAFラボ

札幌市資料館 (p.8) に開設された「SIAFラウンジ」と「SIAFプロジェクトルーム」の2つのスペースを活動拠点として、札幌独自の芸術祭を実現するために、市民一人ひとりにとっての「札幌」を考え、発見、発信するプロジェクトの総称です。これらのスペースにはSIAFに関連するインフォメーション、ライブラリー、ギャラリー機能に加え、カフェも併設しています。芸術祭期間にかかわらず、年間を通じてどなたでも気軽にご利用いただけます。



開館時間：9:00-19:00

休館日：毎週月曜日（月曜祝休日の場合はその翌平日休館）、年末年始（12月29日～1月3日）



SIAFラウンジ



SIAFプロジェクトルーム



SIAFラボ編集局 — サッポロを編集する —

暮らしにまつわる「人・もの・こと」を題材として、地域ならではの情報を集め、編集、発信していくプロジェクト。新しいメディア（情報発信媒体）の開発にもチャレンジしていきます。

ラウンジトーク：毎月1回開催

編集会議：毎月1回開催



ツララボ Bent Icicle Project — Tulala

「つらら」を題材としたアイデアを持ち寄り、ワークショップやイベントを通して雪国ならではの暮らしの可能性を検証・再考するプロジェクト。また、参加者がメディア・アートや現代アートについて学びながらプロジェクトの運営に関わることで、新たな芸術文化活動の担い手や札幌独自の活動の創出を目指します。

ミーティング：毎月1回開催

夏のイベント：2016年8月27-28日



《一石を投じる》のこれから —パブリックアートについて学ぶ—

SIAF2014の出品作品で芸術祭終了後も札幌市資料館の前庭に仮置きされている《一石を投じる》。この作品をこれからどのようにしていくのがよいのか、さまざまなゲストを迎え、公共空間におけるアートやパブリックアート等について学びながら、《一石を投じる》作者の島袋道浩、参加者が共に考えます。

第3回：2016年10月16日

SIAF2017スペシャル・ビッグバンド (企画チーム)

バンドマスター (ゲストディレクター)

大友 良英

調律 (エグゼクティブアドバイザー)

沼山 良明

バンドメンバー (参加メンバー)

端 聡、細川 麻沙美、上遠野 敏、木野 哲也、
マユンキキ (マレウレウ)、宮井 和美、中島 洋、
坂口 千秋、佐藤 直樹、漆 崇博、藪前 知子



SIAF2017スペシャル・ビッグバンドとは

SIAF2017の企画チームをバンドに例え、バンドマスターである大友良英の下にさまざまなバックグラウンドをもつバンドメンバーが集まり、SIAF2017をつくっていきます。このバンドは盆踊りのお囃子のようなもので、踊りが始まれば、その中心はバンドから、次第にお囃子に合わせて踊っている一人ひとり、つまり参加する皆さんに移っていくように札幌国際芸術祭の準備を進めていきます。

スタッフ

船戸 大輔、カジタシノブ、斎藤 ふみ、白井 宏昭、富田 哲史、山岸 奈津子

札幌国際芸術祭実行委員会組織

顧問	高橋 はるみ	北海道 知事
顧問	高向 巖	札幌商工会議所 会頭
会長	秋元 克広	札幌市 市長
副会長	板垣 昭彦	札幌市 副市長
副会長	蓮見 孝	札幌市立大学 学長
委員 (監事)	酒井 裕司	一般財団法人さっぽろ産業振興財団 専務理事
委員	荒木 啓文	札幌商工会議所 専務理事
	広瀬 兼三	株式会社北海道新聞社 代表取締役社長
	中田 裕之	日本放送協会札幌放送局 (NHK) 局長
	星野 尚夫	一般社団法人札幌観光協会 会長
	浅川 昭一郎	公益財団法人札幌市公園緑化協会 理事長
	白鳥 健志	札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長
	廣川 雄一	札幌大通まちづくり株式会社 代表取締役社長
	橋本 道政	公益財団法人札幌市芸術文化財団 副理事長
	佐藤 哲夫	北海道環境生活部 文化・スポーツ局長
	松浦 英則	北海道教育庁生涯学習推進局 局長
	小西 正雄	札幌市経済観光局 局長
	池田 佳恵	札幌市市民文化局 局長

撮影

クスメイリカ (p.2、p.17 SIAFラウンジ、p.18)

藤倉 翼 (p.7／p.13 レトロスペース坂会館、大漁居酒屋てっちゃん)

小牧 寿里 (p.14 大風呂敷プロジェクト)

ハレバレシャシ (p.15 さっぽろ八月祭)

木奥 恵三 (p.16 ボランティアプロジェクト)

本資料についてのお問い合わせ

札幌国際芸術祭事務局(担当：石田、岡本、山岸)

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

札幌市国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314 | FAX: 011-218-5154 | E-MAIL: press@siaf.jp

WEB: <http://siaf.jp>

Facebook: <http://www.facebook.com/siaf2014info>

Twitter: http://twitter.com/siaf_info